

2020年度採択 資金分配団体 プログラム・オフィサー研修

中間評価直前研修

2022年6月8日

一般財団法人CSOネットワーク



JANPIA

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構

本講座の資料は、JANPIAの委託により、一般財団法人CSOネットワークの責任のもと、以下のメンバーによって作成されました。

今田克司、千葉直紀、大沢望

休眠預金等活用制度は、資金分配団体と実行団体の皆さんと一緒に作り上げていくものです。本研修では参加や双方向性を意識してより良い時間にしましょう。

「気づき・感想」や「疑問・質問」は、いつでもZoomのチャット欄に書いてください。

事業設計や評価設計において正しさを決めるのは、資金分配団体の皆さんです。JANPIA POや講師陣は、そのための壁打ち役やリソースパーソンとして活用ください。

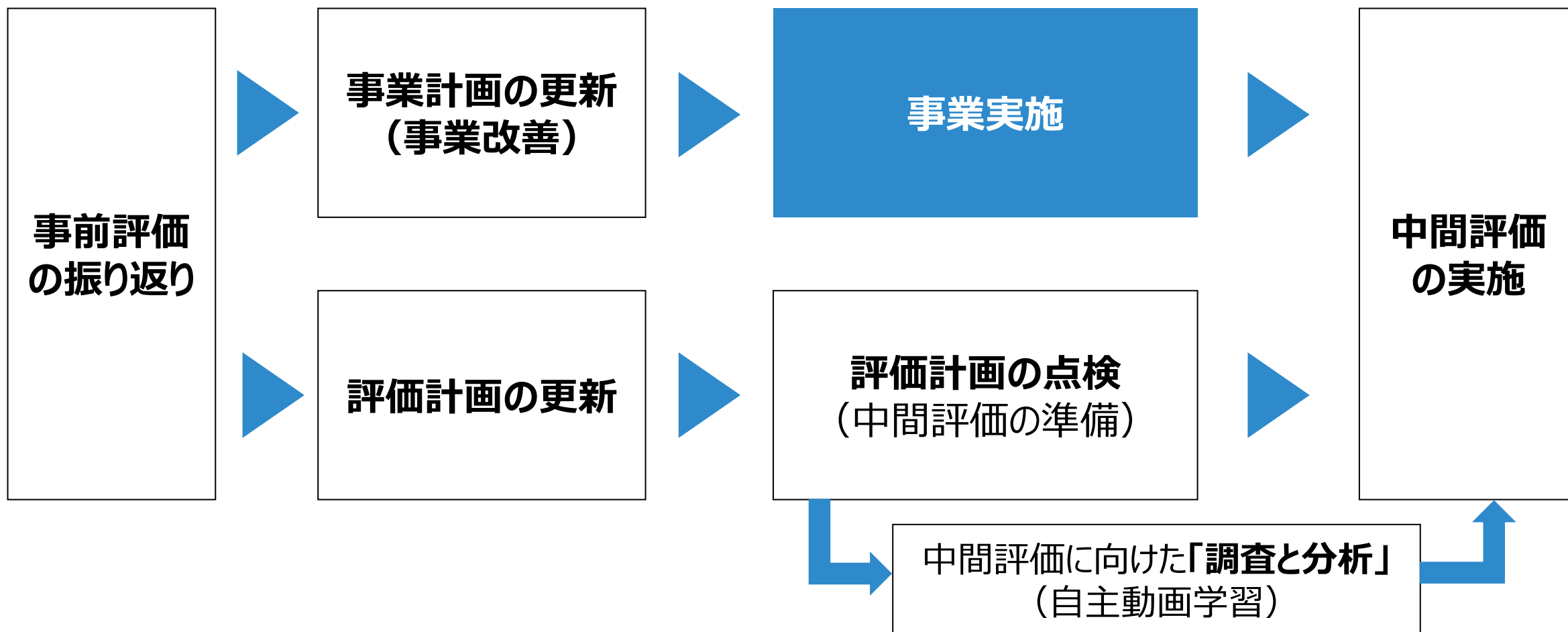
本セッションの到達目標は、以下の通りに設定しました。

- **資金分配団体や実行団体のアウトカム創出に向けて、これまでの蓄積（事前評価結果等）を活かすイメージを明確にしてもらう。**
- **「中間評価の計画」や「計画に対する点検」の考え方を確認して、中間評価・事後評価に向けて見直すべきことの観点が明確となる。**
- **資金分配団体同士が、お互いの事業／評価実践の様子や工夫、課題感などを共有することで、現場に活かせる気づきを得る。**

- 1. 【講義】事前評価を事業に活かす、中間評価につなげる（30分）**
- 2. 【講義】中間評価の点検（30分）**
- 3. 【ワーク①】自団体の事業計画と評価計画の見直し（40分）
【全体共有】（10分）**
- 4. 【ワーク②】団体間共有（20分）
【全体共有と質疑応答】（20分）**
- 5. まとめ（10分）**

1. **【講義】事前評価を事業に活かす、中間評価につなげる（30分）**
2. 【講義】中間評価の点検（30分）
3. 【ワーク①】自団体の事業計画と評価計画の見直し（40分）
【全体共有】（10分）
4. 【ワーク②】団体間共有（20分）
【全体共有と質疑応答】（20分）
5. まとめ（10分）

事前評価（振り返り）から中間評価までの流れを確認しましょう。
本日扱うのは、事前評価と中間評価の間の部分になります。



中間評価に向けた「調査と分析」 (自主動画学習)

社会調査と分析については、今回の研修では扱いませんので、必要に応じて別途学習をお願いします。過去にJANPIA内で外部講師（東洋大学 米原あき 氏）を招いて講座を行っています。本研修後にJANPIA事務局から案内します。

JANPIA 資金分配団体PO研修 @2020/11/25

評価のための 調査と分析

米原 あき
東洋大学社会学部
専門社会調査士



©2020 Aki YONEHARA. All rights reserved.

事業実施によってアウトカムを生み出し、
それを捉えるためには、
どのような準備が必要か。

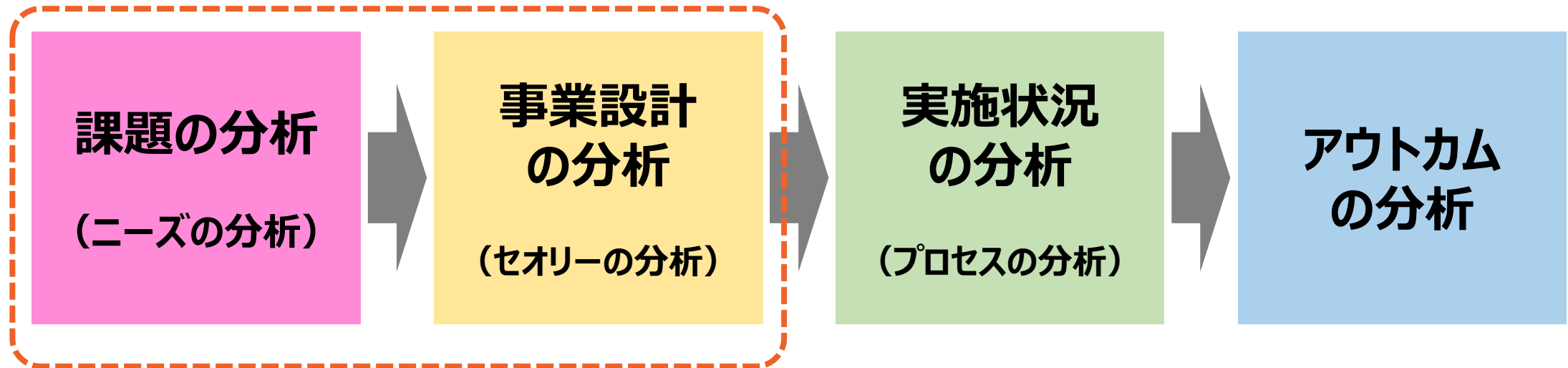
ここでは、事前評価と中間評価を素材として、
一緒に考えてみましょう。

まず、事前評価とは何だったか、
振り返りましょう。

事前評価の目的

事業を実施する前に、事業に取り組む目的、社会課題、目指す成果などが適切かどうかを判断し、事業計画を組み立て・見直しを行うこと。

社会的インパクト評価の4つの要素

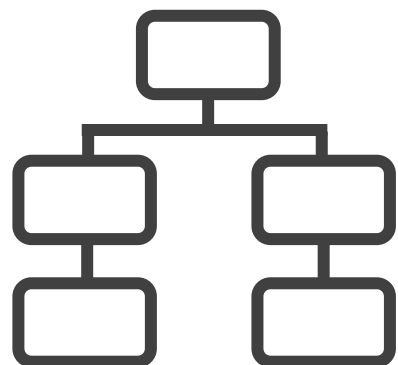


事前評価の範囲

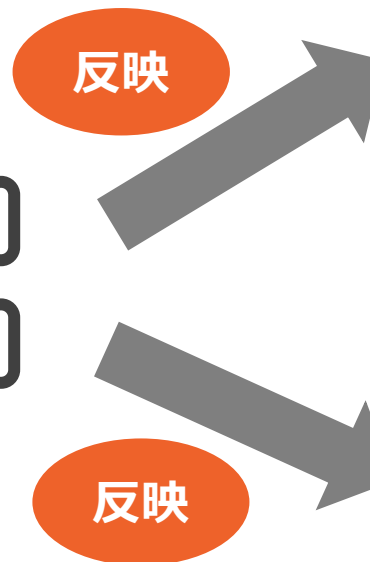
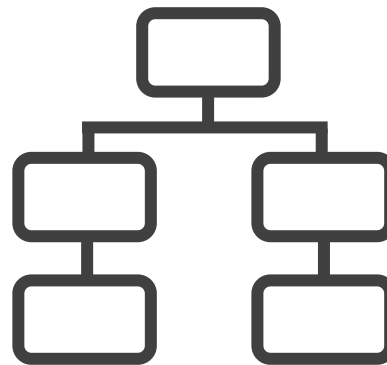
事前評価によって更新した事業設計図は、事業計画と評価計画の元になります。

資金分配団体

【事業設計図 申請時】



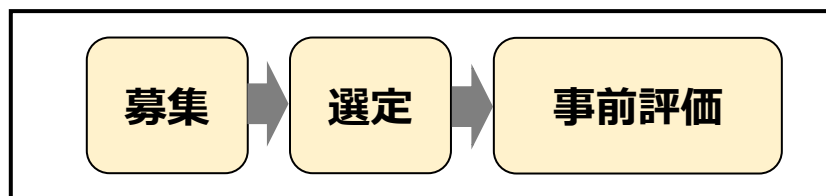
【事業設計図 更新後】



【事業計画】

【評価計画】

実行団体



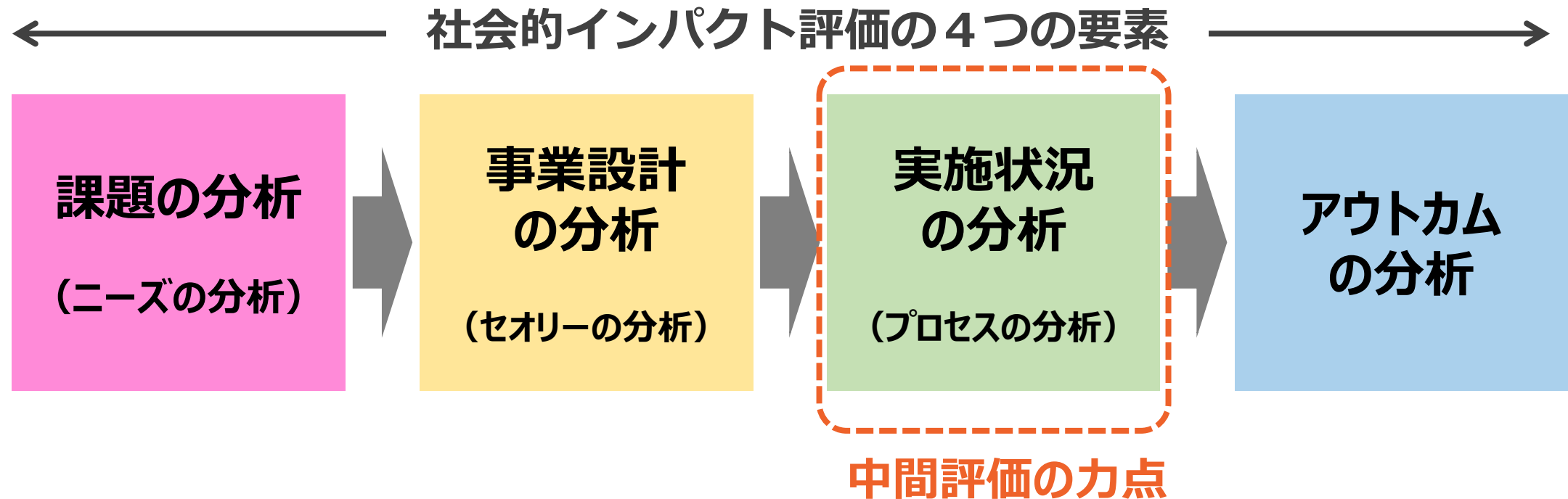
このように事前評価を実施した経験を
最大限活かすことを考えましょう。

(具体は後ほどお伝えします)

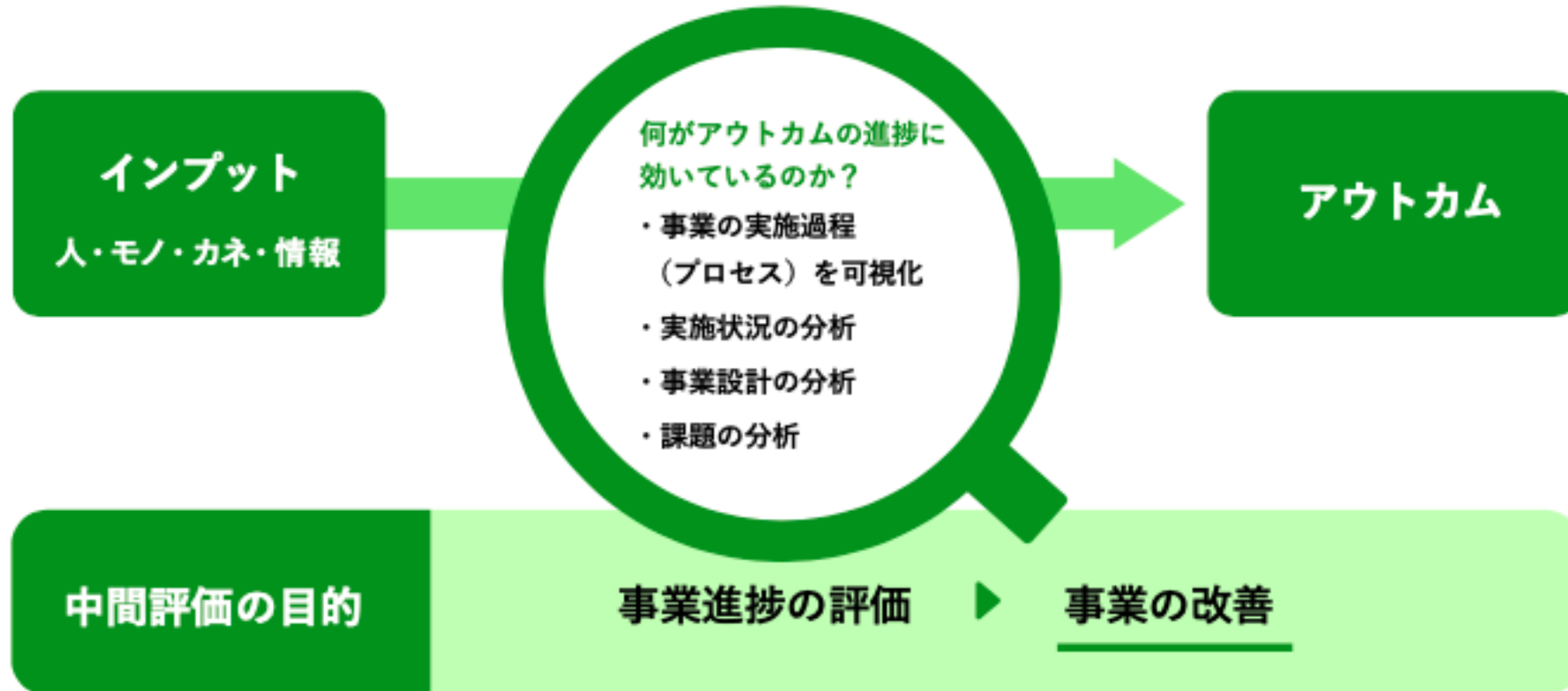
次に、中間評価とは何か、
おさらいしましょう。

中間評価の目的

成果の進捗状況を把握し、事業活動や予算・人材等の資源配分の見直し、必要に応じて事業計画の改善につなげること。



中間評価によって、事業の中間地点で、事前評価で設定した達成すべき成果の進捗状況を把握し、残りの事業期間で、事業目標の達成見込みを高めるために、どのように事業計画を改善すべきかを明確にします。
中間評価を実施する価値は、**これまでの事業実施プロセスを可視化することで、そのプロセスから学び、後半の事業運営をより効果的・効率的な取組みにしていける**ことです。



それではこれからやってくる中間評価を念頭におきながら、
事業でアウトカムを生み出す／それを捉えるための
大事なチェックポイントを見ていきましょう。

お手元に、資金分配団体および実行団体の改訂された
事業計画・評価計画を用意してください。

アウトカムの解像度を高めましょう (アウトカムをより具体的に記述しましょう)

よくない例

若者がエンパワーメントされる

改善例

A地域で高校・大学を卒業したがそのまま就職できていない若者が、就職に向けて自ら行動を起こすための意欲が高まる

アウトカムは、事前評価で深ぼった**対象者のニーズを踏まえて設定**します。
事前評価の結果を、うまく反映できていない方は見直してください。

例の場合は、事前評価「課題の分析」で、「A地域で高校・大学を卒業した若者が就労しないこと」が問題となっており、「就職のためには、情報が足りないのではなく、本人が自ら行動を起こすような意欲が生まれないから、そのための動機づけがされないから」ということが明らかになっていたとします。そこから上記のような短期アウトカム設定にしました。

アウトカムの記述は、第三者が見た時にもイメージできるように具体的であることが大事です。
キーワード・レベルで書かないようにしましょう。



アウトカムの解像度を高めましょう (これは、資金分配団体の非資金的支援についても同様です)

よくない例

実行団体の組織基盤が
強化される

地域内の連携先が増える

改善例

実行団体の担当者が描いている
ロジックモデルへの理解が団体の代表や
マネジメント層に広まり、他の事業でも
ロジックモデルを作成するようになる

B地域でシングルマザーが抱える課題の
現状やその要因に関する理解が深まり、
行政が地域連携のための施策を検討す
るようになる

実行団体において担当者が資金調達に
向けた活動を自律的にできるようになり、
活動の継続可能性が高まる

B地域でシングルマザーの雇用促進に
向けた機運が高まり、コンソーシアムの
参加企業が増える

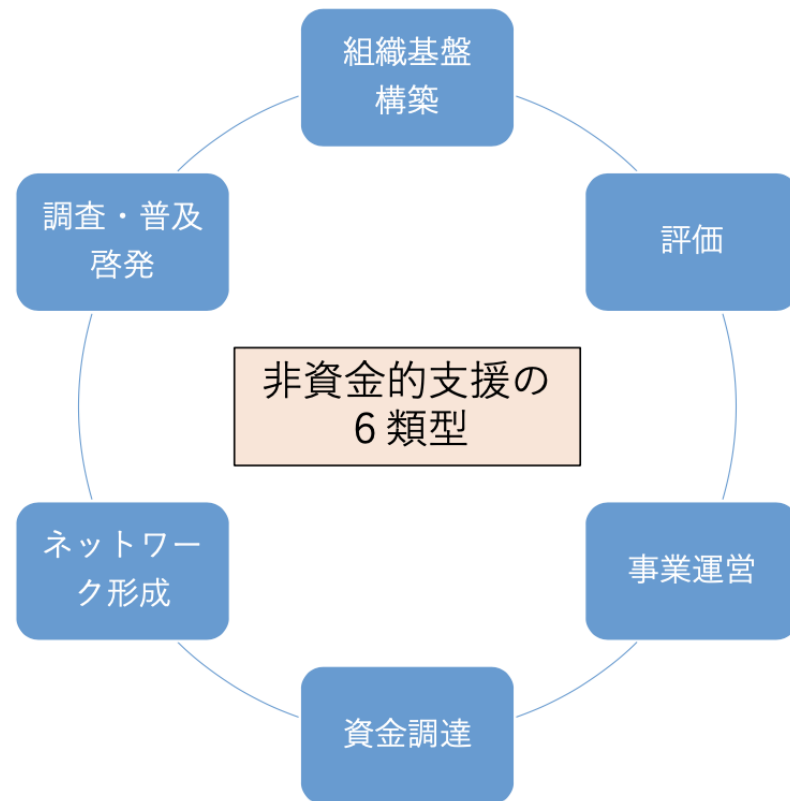
非資金的支援の短期アウトカムは、事前評価で深ぼった「**実行団体の組織基盤**」や、「**事業の受益者をとりまく環境的なニーズ**」を踏まえて設定します。

事前評価の結果をうまく反映できていない場合は、見直してください。

【参考】非資金的支援の類型



休眠預金資金活用制度では、資金分配団体が非資金的支援を積極的に担うことが強く求められます。各資金分配団体が、それぞれの助成戦略を実現するために最適な非資金的支援を行えるよう、JANPIAから積極的に提案していきましょう。



「非資金的支援」策定のポイント

- 資金分配団体の支援戦略との整合性
- 資金分配団体のキャパシティ
- 資金分配団体の内部リソース
- 利用可能な外部リソース
- 実行団体のニーズ
- 活動分野を取り巻く社会環境
- 活動分野における潜在的なステイクホルダー 等

留意点

- 非資金的支援と通常の運営管理業務は区別すべき
- 受け身の相談対応ではなく、明確な目標を持ち、成果が検証可能な支援計画の策定を目指すべき

出典：多摩大学 小林氏 支援戦略の整理資料より

【参考】資金分配団体に求められる包括的支援プログラム



資金分配団体の包括的支援プログラムを意識した事業設計図は、以下の例を参考にしてください。 出典：2022年度資金分配団体公募 事業設計図補足資料

〈実現したい社会の状態（長期アウトカム）〉

医療的ケア児とその家族を支援する社会的インフラが整っており、家族全員が社会とのつながりを持っている状態

〈事業終了3～5年後に実現したい状態（中期アウトカム）〉

誰（どこ）が、どんな状態になることを目指し、あなたや団体がコミットしますか

受益者の状態	実行団体等の状態	対象地域の状態
<ul style="list-style-type: none">希望する子どもたち皆が、社会との接点を簡単に持てるような状態になっている。・親の孤立感や疲弊感が軽減している。	<ul style="list-style-type: none">行政や他団体との連携により支援対象地域の医療的ケア児とその家族に対して情報発信や支援ができる状態になる	<ul style="list-style-type: none">医療的ケア児の世帯がレスパイトケアや体験等の支援にアクセスしやすい状態になる

〈事業終了時まで実現する状態（短期アウトカム）〉

上記に設定した目標状態を達成するために必要な「前提条件」は何ですか

受益者の状態	実行団体等の状態	対象地域の状態
<ul style="list-style-type: none">支援対象者が、社会との接点が増え、孤立感が軽減している	<ul style="list-style-type: none">実行団体が助成期間と同程度以上の支援を継続できる基盤を有している	<ul style="list-style-type: none">支援を行う行政や民間の団体、実行団体で情報交換が定期的に行われている

〈想定する実行団体の活動〉

<ul style="list-style-type: none">医療的ケア児とその家族の旅行や夢の実現をサポートする医療的ケア児の家族のレスパイトケアの提供	<ul style="list-style-type: none">クラウドファンディングプラットフォームの提供他団体や行政とのネットワーク強化<ul style="list-style-type: none">実行団体の組織基盤強化支援（主に評価、資金調達、経営、人材育成、広報支援）
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈資金分配団体の活動〉

短期アウトカムを生み出すための事業のアウトプットが整理されているか、 それらが事業設計図が適切に反映されているか

アウトプットについて

中間評価の力点は「実施状況の分析」であり、具体的にはアウトプットを測定することが多いです。現在設定されているアウトプットは、本当に事業の成果に向けた進捗をチェックするものになっていますか？

事業設計図（セオリー）について

事業設計図（セオリー）はアウトカムを創出するための作戦図であり、アウトカムの評価をおこなう際の拠り所になります。事業設計図のロジックで怪しいところはないですか？ 中長期アウトカム-短期アウトカム-アウトプットのつながりに無理や飛躍がないか？ 実行団体の事業設計図について、事業の関係者や資金分配団体としても合意していますか？

事前評価結果を踏まえて、中間評価の前に、ぜひ一步引いた目線で見直してみてください。

よくない例

【中長期アウトカム】
社会保障費が低減する

【短期アウトカム】
若者の希望する進路選択が実現する

【アウトプット】
若者に学習支援プログラムを提供する

改善例

【中長期アウトカム】
地域の若者が、自分の進路を真剣に考え、自分にふさわしい進路選択ができるようになる

【短期アウトカム】
プログラムに参加している若者の学習習慣が向上し、成績アップにつながる

【アウトプット】
若者に学習支援プログラムを提供する

【参考】各段階で改善・進化する「事業設計図」



事業設計図は、事業の各段階で改善・進化させていくものです。

中間評価をとおして、事業設計図を検証・更新し、事業を改善していくことが大切です。



設定されている指標は適切か確認しましょう
(指標＝短期アウトカム指標、アウトプット指標)

よくない指標の例

短期アウトカム

A地域で高校・大学を卒業したがそのまま就職できていない若者が、就職に向けて自ら行動を起こすための意欲が高まる

就職セミナーのパンフレットが届いた若者の数

アウトプット

若者と出会い、後押しする機会となるような居場所を開催する

居場所を開催した回数

指標の改善例

就職のための具体的な行動（情報収集、相談、応募等）を自ら起こした若者の数

居場所を開催して若者と出会った回数と人数

設定されている指標は、事業の進捗状況を把握することができ、事業成果が得られる見込みの高さを検討・判断できるものになっているか、確認しましょう。



データ収集計画がきちんと立てられているかを確認しましょう

定めた指標について、実際にどのようにデータを取るのか、そのための計画が出来ているのかを確認します。

例えばアンケートであれば、いつ、どのような内容を、誰を対象に取るのか、またデータ収集前にどのようにデータを分析するのもも含めて具体的に検討しておきましょう。

アンケートやインタビューの項目ができれば、実際にデータを取る前に、事前テストや内部での確認を行うことを推奨します。

出典：実行団体向け評価ハンドブック 中間評価編（JANPIA, 2021.8）

測定方法		具体的に実施する内容	質を高めるために確認するポイント
情報源	データ収集方法		
先行研究 行政調査	文献調査	●活用できるデータの確認、収集 （白書、行政の統計データ、研究論文）	<div>✔ より信頼性の高いデータはないか</div> <div>✔ 最新のデータを取得しているか</div> <div>✔ 情報の出どころは信頼性が高いか</div> <div>✔ 使用する研究論文と異なる意見の研究論文は存在するか（情報に偏りはないか）</div>
多様な 関係者	関係者 インタビュー	●関係者の整理 ●インタビュー対象者の選定 ●インタビューの設計（内容、実施方法、分析方法）	<div>✔ 今回のタイミングで聞くべき人たちに話を聞いているか</div> <div>✔ インタビューの設計内容について団体内で合意しているか</div> <div>✔ 対象者への負荷やプライバシーへの配慮はできているか</div>
多様な 関係者	関係者分析	●多様な関係者のリストアップと分類 ●重要な関係者の選択、分析 ●事業対象グループの確認	<div>✔ 重要な分野の関係者がカバーされているか</div>
受益者 対象 グループ	フォーカス グループ ディスカッション	●ファシリテーター、参加者の選定 ●質問事項やディスカッション内容の検討 ●ディスカッションの結果データの分析方法	<div>✔ 参加者の選定に意図しない偏りが生じていないか</div>
受益者 対象 グループ	ワーク ショップ	●ファシリテーター、参加者の選定 ●ワークショップでの議論内容の検討 ●ワークショップの結果データの分析方法	<div>✔ 参加者の選定に意図しない偏りが生じていないか</div>
受益者 対象 グループ	アンケート 調査	●アンケート調査の設計 ●アンケート対象者の選定 ●アンケート自体の設計（質問、実施方法、分析方法）	<div>✔ 対象者の選定に意図しない偏りはないか</div> <div>✔ 誘導質問になっていないか</div> <div>✔ アンケートの設計内容について団体内で合意しているか</div>

「目標値／目標状態」設定の根拠はあるかを確認しましょう (価値判断する時の基準になります)

指標の例（実際の記述例）

地域で発掘され、可視化された孤立者の人数

地域の孤立者への相談を実現する実行団体のコーディネート力（相談件数、マッチング件数）

産後ママが自身の状態を
どれだけ語れるようになっているか

目標値／目標状態の例（実際の記述例）

初期値よりも増えている

実行団体が地域の関係団体と顔の見える関係になり、
関係者をつなぐコーディネート実績がある状態

【自分のことを他者に語ることができる】、
【今までよりもさらに語ることができる】ようになる

「目標値／目標状態」は、漠然と「初期値よりも増えている」や、根拠なく適当に設定されていませんか？

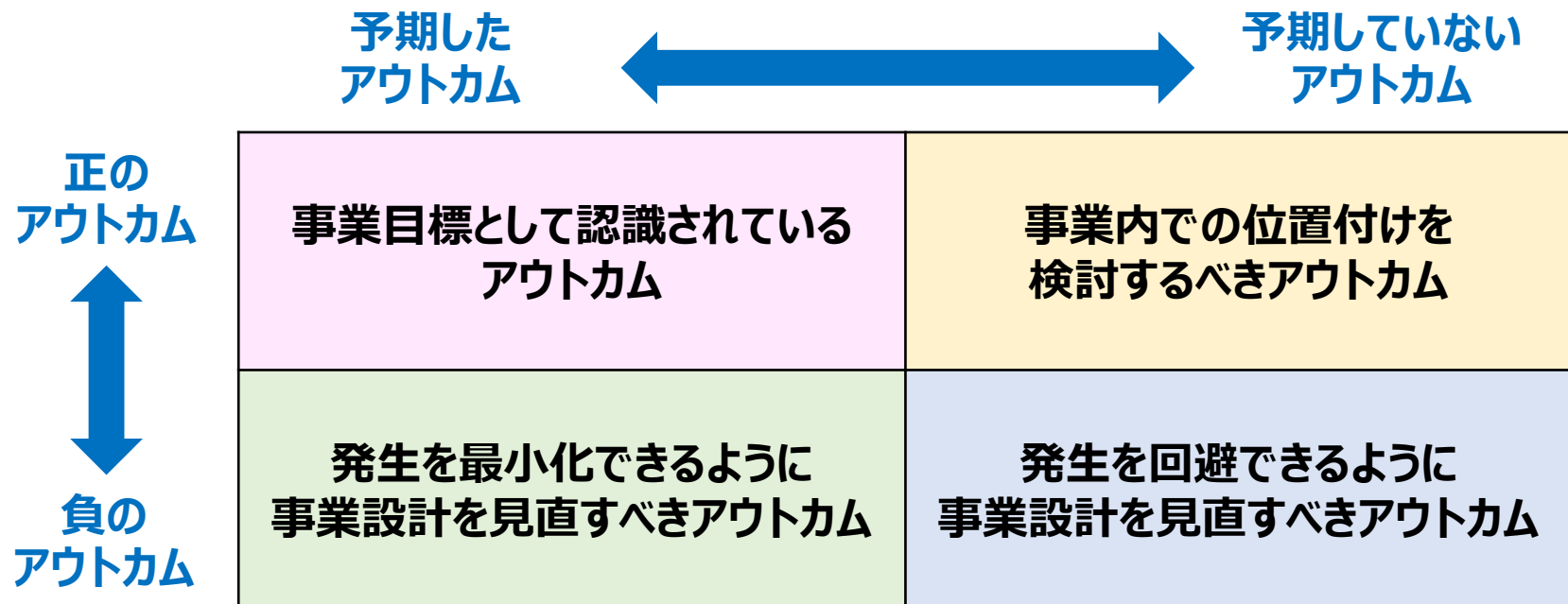
「目標値／目標状態」は評価で重要な価値判断の根拠になります。対象となるアウトカム、アウトプットがどの程度までいくと十分と言えるのか、参考となる文献や関係者との議論によって、設定しておきましょう。

数値目標を掲げるのは、関係者にとってわかりやすい共通の目標になります。ただし、その数値が妥当なものかを検証すること、固定してしまっていて一人歩きしないように気をつけることが大事です。

特に、「目標値／目標状態」を精査をおこなうことによって、資金分配団体として、および各実行団体への支援計画のなかで目標設定による事業の優先課題の明確化につながります。

想定外の成果を把握するための方法が 考えられているか、を確認しましょう

データ収集では、予期（計画）していたアウトカムだけでなく、予期（計画）していないアウトカムについても把握することを意識しましょう。以下の4象限で考えてみることは有用です。予期していないアウトカムの把握について、具体的には、アンケートで「その他の項目」をつくったり、インタビューで対象者に、変化に関する質問を一通り聞いたあとに「その他にありませんか？」などとは問いかけることも一案です。加えて、事業担当者として「考えていたことと違う」と思ったことをメモし、スタッフ内で共有したりすると、それが新たな発見につながるきっかけになります。このようにすることで、事業の思わぬ成果の発見につながり、事業をより良くすることにつながるでしょう。





質的な情報収集も忘れずに

事業の成果を把握するにあたり、量的な情報のみでなく、質的な情報（エピソードなど）も集めるとよいでしょう。それが事業の成果を多面的に把握すること、事業の価値を関係者にわかりやすく伝えることににつながります。

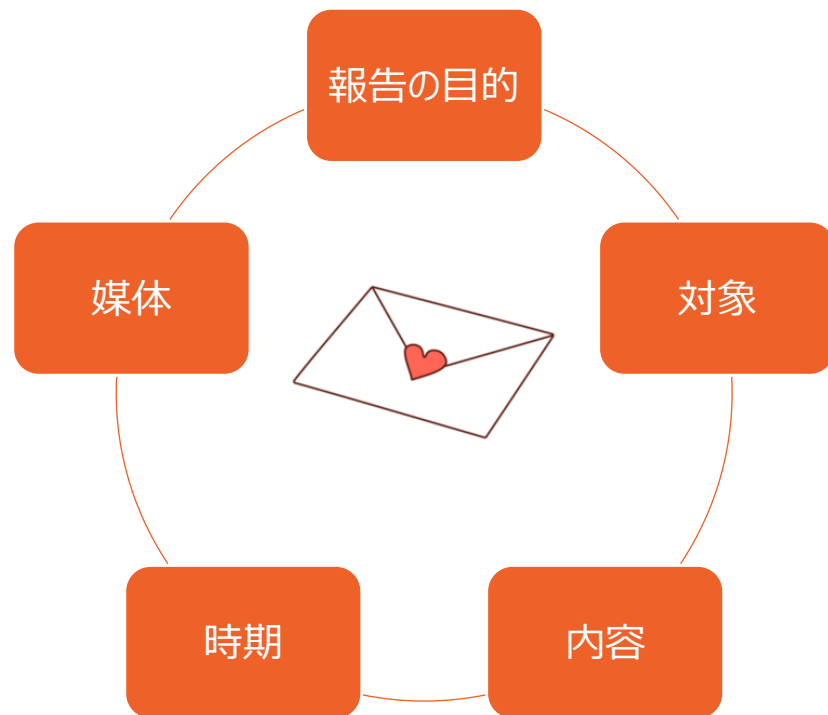
＜実践のヒント＞
アンケートの際には、選択式であればその項目を選んだ「理由」や「具体的な内容」を聞くなどが考えられます。変化に関する質問を入れるようにしましょう。
インタビューの際には、具体的なエピソードや事実ベースの話を聞くことが望ましいです。「いつ」、「誰が」、「何を」、「どうした」のかなど、会話の中でうまく事実を引き出せるように進めましょう。この事実から変化の情報を取るのです。個人レベルの変化には、意欲、意識、知識、態度、行動などさまざまな観点があります。その中で、心理的な変化を聞くのは難しいですが、これは工夫のしどころです。例えば、ある事業実施期間中の心理的な変化を聞こうと思ったら、事業の開始時から終了時に至るまでの時間軸に沿って気持ちの変化をグラフにしてもらって、一緒にそれを見ながら会話をすることで、具体的な変化のエピソードが聞けるかもしれません。

定量データと定性データの特徴を以下に挙げます。（米原, 2020）

定量・量的データ		定性・質的データ
分析	「仮説」に基づく統計的な分析	「解釈」に基づく質的考察
長所	分析結果の一般化が可能ゆえ、政策提言に適する	分析結果の一般化には制約があり、広範囲に及ぶ提言には向かない
短所	対象者の心理状態や現象の因果関係については言及できない	対象者の心理状態や現象の因果関係についての議論・考察が可能

今のうちから、事業の関係者に対する 報告・レポーティングのことを考えておきましょう

事業が生み出した成果や、事業実施から得られた学びを、どのように関係者や地域社会に伝えていく／共有すると良いか、中間評価を設計する今の時点から、実行団体と考えておきましょう。



まとめ方（例）

- 評価報告書
- 評価報告書のサマリ
- プレゼン資料
- 動画・写真
- ストーリーブック
- パンフレット、アニュアルレポート

伝え方（例）

- 報告会
- ミーティング、打ち合わせ
- ワークショップ
- ホームページへの掲載
- Facebook、TwitterなどのSNS
- イベント配布

誰向けの何の報告書なのか、意図を示す



冒頭に「成果」をわかりやすくまとめている

事業レポート

2

多文化多様性が輝く保見団地プロジェクト(愛知県豊田市)

豊田市にある保見団地※は、住民7,296人の半数以上が外国人住民。1990年代から自治体やボランティア団体等による多文化共生の取り組みが数々行われましたが、なかなか地域に根ざすまでに至りませんでした。しかし、2019年の「HOMIアートプロジェクト」で、住民の気持ちや協働・連携の機運の高まりが生まれます。この流れを活かし、「顔の見える関係性が息づく団地コミュニティを作ろう」と、包括的なチャレンジが始まりました。

》 課題

本事業の中心となる県営保見住宅は1975年に入居が開始、昔から住む住民の高齢化(大半は日本人)と子育て世代の多い外国人住民というギャップもあり、日本人役員を中心とした自治会維持の難しさ、子ども会不在での子育ての不安など、団地コミュニティのあり方を再生していく必要に迫られています。本事業での全戸調査で、生活で困っていることの上位が「ご近所づきあいが少ない(外国人一位)」「規則を守らない(日本人一位)」であり、住民同士の顔が見える関係性をどう築くかを念頭において事業に取り組んでいます。

》 中長期目標

- 保見団地において、多様な住民が支え合い、顔の見える関係性が息づくあたたかい故郷のような地域・社会になる
- ゴミ問題の解決、集会所等での交流の充実、自主グループと自治会の関わりによって、暮らして楽しい団地になっている
- 外国人住民が主体的に活躍できる環境ができ、生活情報発信やコミュニティビジネスが展開されている
- 大学生が保見団地に暮らし、出入りするこが増えて自治活動に参画し、暮らすのも訪問するのも楽しい保見団地になる

活動内容と成果

※成果数値は2020年4月～2021年3月

助け合いのコミュニティづくりのために、団地生活に関わる様々な活動に着手。外部協力者や新たに見えたニーズも組み込みながら、精力的に活動しています。

- 子ども食堂、高齢者サロン等による集会所を拠点とした交流の促進
- 集会所・アートプロジェクトの空間・公園等を活用した住民の自主的な交流活動の進展
- 生活課題を抱える人に対する食料配布等の支援、出前型支援、相談体制の充実
- 外園にルーツを持つ子どもの教育支援、地域活動参加の促進
- 自主サークル、防災活動、コミュニティビジネスを通じた外国人住民の自治活動の促進
- 粗大ゴミ問題対策としての、住民参加型のゴミ回収、リユース活動
- 生活や自治活動に関わる情報を住民に届ける多言語情報発信

■ 集会所など団地内で行った交流・助け合い活動の回数 ▶▶▶ 67回

フードパントリー(食料配布)等の定例活動のほか、七夕会、アートプロジェクト、高齢者サロン、新入学を祝う会等、様々な住民の顔がにつながるための交流活動を行いました。

■ フードパントリー、こども食堂参加者数(延べ)

▶▶▶ 1,520人(35回) / 153人(22回)

毎週金曜朝に集会所で実施。顔なじみの関係が作られる一方で、Facebookでの発信も加わり、新規の参加者も少しずつ増えています。

■ 全戸アンケートで回答が得られた人数 ▶▶▶ 170人 / 配布数808

ポスティングして全戸調査を実施。日本人63、ブラジル人93、ペルー人12、中国人2でこの種の調査では高い回答率を得、自由記述にも住民の様々な想いが綴られています。



アートプロジェクトによる25棟連いの場で七夕会



学生と自治会役員で全戸調査をポスティング

- 5月 プロジェクトに関わる関係者・専門家ヒアリング
コロナ10万円給付金相談会・生活困窮状況を確認
- 7月 フードパントリー(毎週金曜朝)と食材を受け取る人のエコキャップ回収を組み合わせた活動をスタート
アートプロジェクト空間を使った七夕会
- 9月 自治会清掃活動に中京大生参加(以下、毎月協力)
- 10月 団地住民に関わるリユース活動の先進事例を視察
トヨタ自動車EX会が集会所の耐火ボード設置後、子ども食堂スタート(毎週金曜朝)
- 11月 県・行政機関・領事館等が集う関係者会議で意見交換
- 12月 多言語による全戸アンケート調査でニーズ把握
アートイベント(クリスマス飾り・マスクアート)
年末年始に子ども食堂・高齢者サロン特別企画
- 1月 粗大ゴミリユース工房に向けた検討・場所の整備
- 3月 外国人住民等を対象にコミュニティビジネス連続講座
関係者会議で調査結果を元に話し合い
子育て支援として新入学を祝う会を開催



通訳付・コロナ給付金相談会に100人が参加



トヨタ自動車社員EX会が集会所整備



フードパントリーと子ども食堂を毎週実施

今後の展開

定期活動・イベント・講座等、プロジェクト全体は順調に進み、外部からの協力の輪も広がってきています。これを住民が主体的に関わるコミュニティづくりに転換していくことが今後の課題。全戸調査の結果を元にしたい意見交換、外国人住民が主役となるコミュニティビジネス見本市などで、今後の保見団地について話し合う場づくりをしています。その呼びかけが住民にしっかり届くように多言語情報発信や、参加したいと感じるような魅力づくりを工夫したいと思っています。

団体紹介

チームの特徴

住民自治組織である県営保見自治会を基盤に、多文化共生に取り組んできた地元のNPO、他市での先進的取り組みを持つ組織、チャレンジ力旺盛な大学生グループ等、多様性に富んだチーム。多岐にわたる活動を各々が受け持つと同時に、密な協働作業やコミュニケーションの中で、エネルギーをぶつけ合い融合させながら変化を生み出しています。

■ コーディネート団体

【愛知県県営住宅自治会連絡協議会】

URL <https://projehomi.jimdofree.com/>
多文化多様性の輝く保見団地プロジェクト事業
(3年間助成総額: 約1,574万円(予定))

■ 課題実行団体

【県営保見自治会】

子どもから高齢者まで、住民が考える多国籍団地自治プロジェクト事業
(3年間助成総額: 約508万円(予定))

【特定非営利活動法人トルシダ】

URL <https://torcida.jimdofree.com/>
つながりで作る多文化多様性が輝く地域プロジェクト事業
(3年間助成総額: 約523万円(予定))

【保見プロジェクト(中京大学)】

URL <https://www.chukyo-u.ac.jp/educate/gendaisaiyakai/tsunagari/11/>

保見に新しい風を!事業
(3年間助成総額: 約455万円(予定))

【外国人との共生を考える会】

外国人による地域活動推進と多言語情報発信プロジェクト事業
(3年間助成総額: 約63万円(予定))

地域課題や中長期目標を記載する (事前評価で深堀した内容)

実行団体を示している

協働・連携（チームアプローチ）による効果



効果1 ▶▶▶ アピール度が向上し、地域に広がる

複数の団体が連携・協働して課題に取り組む姿は、地域社会や自治体の関心を高め、課題の周知や活動の広がりを生んでいます。

例：〈①孤独を生み出さないための居場所づくりの整備〉では、チームを組んでコミュニティシネマという新たなアプローチが生まれたことで、教育行政・学校をはじめ、地域、多様な市民団体、文化・芸術団体と各界の関心をよび、これらの組織からさらに周囲に情報発信・理解が広がっていく状況が生まれています。



効果2 ▶▶▶ 課題を多角的・包括的に支援

チーム構成団体が多角的に課題を見つめることで、課題認識の広がりや深まりが生まれ、包括的な支援活動に展開します。

例：〈②多文化多様性が輝く保見団地プロジェクト〉では、助け合いのコミュニティの実現にあたり、生活困窮支援・子育て支援・高齢者の孤立防止・ゴミ・防災といった多角的な取り組みが行われています。1つの活動から課題発見がされ別の支援につながったり、支援を受けた住民が別の活動では協力者となる等、地域生活をよくする包括的な動きに発展してきています。



効果3 ▶▶▶ 知見・資源が融合し、活動の質が高まる

団体間の協働を通して、各団体が持つ知見や資源の相互活用や融合が生まれ、課題解決活動に質の向上・新たな価値を生み出します。

例：〈③自然と生きる若者集団プロジェクト〉では、過疎地域の課題・資源を大学生の力を活かして地理情報システム（GIS）でマップ化し、活性化に向けた情報共有を進めました。また、地域特産物サイト「カシモール」を、地元生産者・地元ライター・若者の知識やセンスを融合して制作、農山村と都市を結ぶ新しいアプローチが始まっています。

自分たちの価値として、**伴走支援（非資金的支援）の取り組みを整理して提示している**

連携・協働の構築を伴走支援します

プログラムオフィサーをはじめ、CC、ワーク、評価委員等の総合的な体制のもと、実行団体に寄り添った伴走支援を行います。

- 包括的課題解決体制づくりに向けて
協議の場づくり支援、ステークホルダー調査等の環境整備
- チームアプローチの効果発揮のために
知見共有化の促進、協働作業の運営への助言、チームの視点からの成果分析の支援
- 各団体の事業実施に向けて
月次の事業進捗確認、状況分析と事業見直しの伴走、評価活動への支援
- 各団体の組織基盤強化のために
ガバナンス・資金・人材・情報等の基盤強化に関わる研修・個別支援

本事業の効果について、簡潔に示している（ToCに対応している？）

チームアプローチによる課題解決活動。2022年以降は、「横展開」でも展開します。

「NPOの協働・連携構築事業」は、特定地域において、社会的課題に対して複数団体で支援の質を深めていく「縦展開のチームアプローチ」です。一方、課題解決活動は、特定の地域で行われるのみならず、課題解決の上で共通して必要になる事業（＝基軸的事業）を共有知にして他地域に広めていく「横展開のチームアプローチ」も必要です。当ファンドでは、2021年度に募集された休眠預金草の根活動支援事業に「チームによる支援活動の広域展開 ～子ども・若者（外国人を含む）に焦点をあてた社会的包摂の実現～」をテーマに応募し、採択されました。今後、本事業に取組む民間公益団体を公募・選定し、2022年から3年間の事業をスタートします。





長野県みらいベース 公共的活動応援サイト

新着情報 寄付プログラム 冠寄付情報 プロボノ情報 長野県みらいベースについて NPOの方へ

みんなのための活動を応援しよう！

応援金総額 **116,415,438円**

2022.06.06現在



冠寄付情報

休眠預金活用長野県内実行団体活動レポート From SNS

2020.12.01

冠寄付情報

- ・冠寄付とは
- ・冠寄付・助成プログラム



一般社団法人 ぶれジョブ長野支部



<申請事業名>

生きづらさのある市民の居場所づくり

<事業概要>

JR小海線小海駅駅舎のJA長野八ヶ岳の営業所跡地を有効活用する。

小海町、JA長野厚生連佐久総合病院小海町診療所をはじめとする南佐久6町村の関係部局とも緊密に連携を図りながら、既存の枠組みに留まらない多業種連携に則った中長期的な運営体制を確立する。

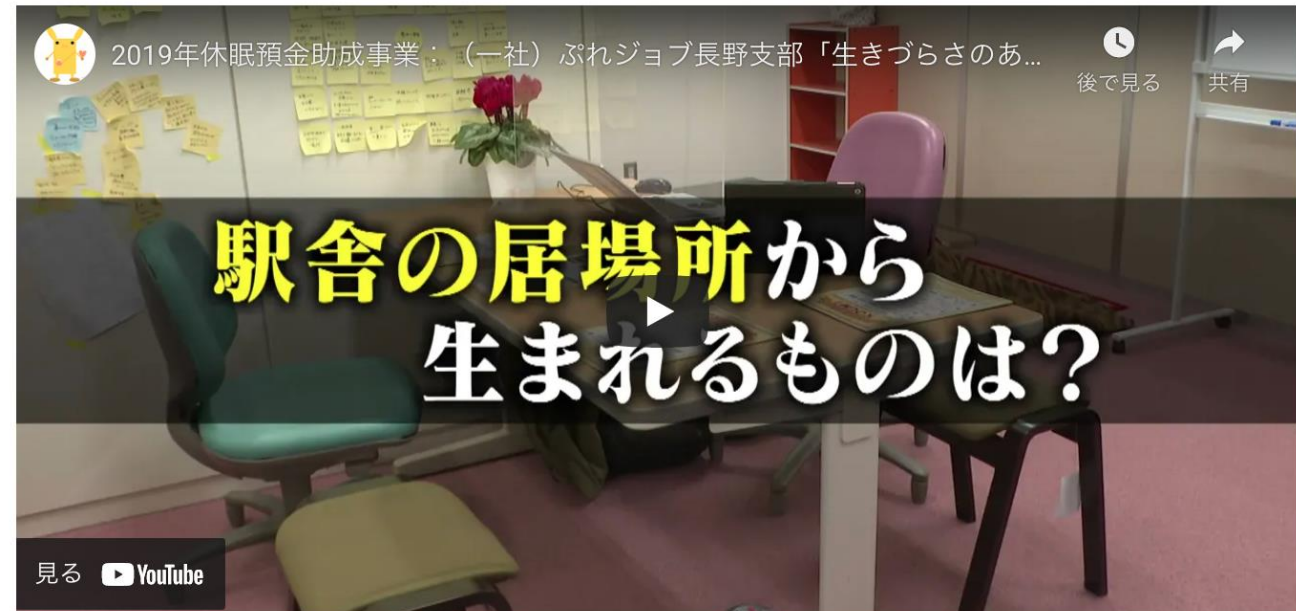
南佐久6町村に未設置の中間教室の機能、小海町在住の児童・生徒を巻き込んだ居場所カフェ、不登校からひきこもりの状態にある全世代の当事者を対象とした自立支援、居住支援の実現も視野に入れた事業展開を構想する。

◆活動状況



YouTubeを作成・掲載して、映像で活動の内容や運営者のこと、活動の価値、課題などを伝えている

◆活動報告



<https://www.mirai-kikin.or.jp/crown-program/1484/>

※2021年に実施した中間評価におけるナラティブな評価を映像にしました。

いかがでしたか？

事前評価を行ったことで得られた学びを事業に反映し、
また中間評価に向けた準備でこれらの点を意識することで、
実行団体の事業がより効果的になりますし、
資金分配団体の事業の成果創出にもつながるでしょう。

1. 【講義】事前評価を事業に活かす、中間評価につなげる（30分）
2. 【講義】中間評価の点検（30分）
3. 【ワーク①】自団体の事業計画と評価計画の見直し（40分）
【全体共有】（10分）
4. 【ワーク②】団体間共有（20分）
【全体共有と質疑応答】（20分）
5. まとめ（10分）

1. 【講義】事前評価を事業に活かす、中間評価につなげる（30分）
2. 【講義】中間評価の点検（30分）
3. **【ワーク①】自団体の事業計画と評価計画の見直し（40分）**
【全体共有】（10分）
4. 【ワーク②】団体間共有（20分）
【全体共有と質疑応答】（20分）
5. まとめ（10分）

【ワーク①】自団体の事業計画と評価計画の見直し



資金分配団体と担当JANPIA POで、以下のワークを進めましょう。

講師は巡回しますので、ご不明な点など聞いてください。

(ブレイクアウト・セッション40分間。その後、全体共有10分とります。)

＜お題＞

最新の実行団体および資金分配団体の事業計画と評価計画に対して、
中間評価に向けて今後見直すべき点を見つけて、印をつけてください。

チェックの観点とは、本スライドに示した視点や「点検チェックシート」を参照ください。

1. 【講義】事前評価を事業に活かす、中間評価につなげる（30分）
2. 【講義】中間評価の点検（30分）
3. 【ワーク①】自団体の事業計画と評価計画の見直し（40分）
【全体共有】（10分）
4. **【ワーク②】団体間共有（20分）**
【全体共有と質疑応答】（20分）
5. まとめ（10分）

【ワーク②】団体間共有



ワーク①でおこなった内容について、資金分配団体間で共有しましょう。3人1組でランダムにグループ分けします。特に自団体の中間評価を準備するにあたる悩みや相談したい点について、Jamboardに記載してください。（ブレイクアウト・セッション20分間。その後、全体共有10分とります。）

＜お題＞

- ワーク①を実施してみて、以下についてルーム内で共有してください。
- ・気づいたこと
 - ・中間評価に向けた悩み、他者に相談したい点
 - ・その他

Jamboardのリンクは、こちらからお願いします。

<https://jamboard.google.com/d/1ueSIWVulz-eDxhxaI5Cc4QbEBxXeGiYPW3D948LQEz0/viewer>

1. 【講義】事前評価を事業に活かす、中間評価につなげる（30分）
2. 【講義】中間評価の点検（30分）
3. 【ワーク①】自団体の事業計画と評価計画の見直し（40分）
【全体共有】（10分）
4. 【ワーク②】団体間共有（20分）
【全体共有と質疑応答】（20分）
5. **まとめ（10分）**